

新潟県

JA越後おぢや おぢやカリフラワー出荷組合

生産 販売

園芸生産者支援策の実施とブランド アピールで、**所得27%アップ**



JA越後おぢや（小千谷市）では、**生産拡大**に向けた園芸生産者支援策の実施、**販売拡大**に向けた品質を活かしたブランドアピールなど、さまざまな取り組みを実践しています。その結果、おぢやカリフラワー出荷組合における10a当たりの所得は、2019年度には19.8万円になり2015年度に比べ、**27.7%増加を実現**しました。

【JAの具体的な取り組みと成果】

生産拡大に向けては、新規園芸生産に取り組む生産者には、作付面積1a当たり2,000円、重点品目の場合には追加で1,000円を助成し、種苗費及び生産資材費の1/2を助成するほか、継続作付けで面積拡大する生産者には、拡大作付面積1a当たり1,000円、重点品目の場合には追加で1,000円を助成するなど、**園芸に取り組む生産者に助成支援**をしました。

その結果、重点品目の一つであるカリフラワーの栽培面積は、2015年度は13.0haでしたが、2019年度には19.2haとなり、47.6%増加しました。

販売拡大に向けては、10月のカリフラワーの主要産地が新潟県で、そのうち約50%を小千谷市が占め、生産者の細やかな管理のもとトップクラスの品質を誇り「白いダイヤモンド」とも称されていることから、**東京青果卸売市場において試食宣伝会を定期開催し、継続的にブランドアピール**しています。そうした品質維持のため、本格的な出荷に合わせて、目合わせ会や出荷販売会議などを開き、新規加入生産者に向けたサポート体制を強化しています。

その結果、販売額は、2015年度は5,410万円でしたが、2019年度には8,195万円となり、51.4%増加しました。

これらの取り組みにより、2015年度から2019年度にかけて、おぢやカリフラワー出荷組合において、**10aあたり27%の所得増大を実現**しました。

カリフラワーの栽培面積



カリフラワーの販売額



カリフラワー生産者における 10a当たりの農業所得*

※平均販売高から
平均農業経費を引いた手取り額



(左上から時計回りに、「白いダイヤモンド」と呼ばれるおぢやのカリフラワー、目合わせ会、生産の様子)

